

プラザ習志野



ダビンチホール



プラザ習志野と13号館, 14号館



プラザ習志野全景

工 化 時 報

第36号



Since 1938

工化会会長あいさつ

工化会会長 太田延幸

(昭和54年卒)



工化会会長の太田でございます。工化会会員の皆様におかれましては、いつも校友会活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

私が工化時報でご挨拶させて頂くのは、今回で三回目になります。今思えば、あっという間に過ぎ去った三年間でした。平成30年(2018年)には物質応用化学科創設80周年の記念事業を学科と共に進めさせて頂き、無事に終えることが出来たのは、会員の皆様方のご協力によるものと感謝いたしております。現在、工化会の役員は学内の先生方に多くお願いしており、学外役員の方の若返りが必要とのことで、既に何人の方々にはご依頼させて頂き、快くお受け頂いております。しかし、その数はまだ少なく、新たにお声がけしてお願いする必要があるかと思っておりますので、その際にはご協力をよろしくお願いいたします。

さて、令和元年11月21日に、東京ガーデンパレス高千穂の間にて「第42回日本大学理工学部学術表彰式」が開催され、物質応用化学科の先生方等が表彰されました。特に今回は、超分子化学研究室の須川晃資准教授が「金属・半導体ナノフォトニック材料の化学構築、および学理と応用探索」という表題で、理工学部学術賞を受賞され、記念講演がありました。表題からはどんな研究かを想像しにくいのですが、「太陽電池材料自身に光閉じ込め機能を発現させる」ことを世界で初めて実現できたとのこと。拙い私の理解ですが、太陽光発電のエネルギー変換効率を向上させることに繋がることと思われ。再生可能エネルギーは、太陽光・風力・地熱・水力・バイオマス等が用いられており、太陽光は水力に次いで二番目の割合となっています。太陽光発電は、全国にメガソーラー発電所が多く見受けられ、多くの家庭でも利用されていることから、先生の研究が適用されれば効率向上に大きくつながると思われ。今後の活用に期待が寄せられます。須川先生、受賞おめでとうございます。

東南アジア国際交流関係では、9月24日から28日の五日

間、ミャンマー教育省の機関である Department of Research and Innovation (DRI) から Dr. Yadanar Win Myint 研究員を招聘しました。DRI はヤンゴン工科大学 (YTU) と強く繋がっており、将来的には本学科・YTU および DRI とが連携した共同研究を目指しています。Dr. Yadanar 研究員には、理工学部 2・8 号館および材料創造研究センターをご見学頂きました。更に、今回の招聘に合わせてご持参頂いた種々のサンプルについて、学科所有の分析装置で分析した結果を母国に持ち帰り、共同研究の方向性について検討して頂いております。今後の進展に注目していきたいと思います。また、26 日には、理工学部タワースコラ 5 階の教室で工化会会員向けに講演会が開催され、平成 30 年に YTU で開催された第 9 回理工学国際会議に参加した院生の古畑晋君からミャンマーの現状などを紹介して頂き、続いて Dr. Yadanar 研究員による DRI の現状や研究内容などのご講演を頂きました。講演後は、タワースコラ 1 階のカフェテリアで、Dr. Yadanar さんを囲んで懇親を深めました。講演会に多数の会員にご参加頂き、ありがとうございました。

令和元年度の第 10 回理工学国際会議は、12 月 7・8 日に YTU で開催され、6 年連続の参加になります。その参加メンバーは、小嶋芳行主任を含む教職員および大学院生に加えて工化会会員の木田秀一様の総勢 11 名で、各専門分野の研究成果についても発表されました。また、日本大学校友会ミャンマー支部の方々とも食事会を通じて校友の絆を深められたそうです。ミャンマーにも日大校友会の支部があることを初めて知り、当校校友会の規模の大きさを感じます。ミャンマーの先生方の招聘と当学科教職員の渡航などにより、物質応用化学科と YTU が少しずつ親密に成りつつあると感じます。工化会としても今後の動向を見つめて行きたいと思えます。

最後になりますが、令和 2 年 (2020 年) は、オリンピックとパラオリンピックが開催されますが、それと共に理工学部も創設 100 周年を迎えます。当学部は、大正 9 年 (1920 年) に日本大学高等工学校の設立に始まり、昭和 3 年 (1928 年) には日本大学工学部、昭和 33 年 (1953 年) には現在の日本大学理工学部となり、既に 23 万人を超える卒業生を輩出しているそうです。我々工化会会員も理工学部卒業生として胸を張り、種々の逆風にもくじけず前進発展していきたいと思えますので、益々のご協力をお願いしたいと存じます。

令和元年度 就職状況



応化進路指導委員会
委員長 仁科 淳良

2020年4月に就職する学生の就活状況は、昨年と同様に就職希望学生数に対する求人が多い、いわゆる売り手市場となっており、2月1日現在、内定をいただいている学生は学卒95%、大学院修了100%となっています。就職する業種に関してはここ数年製造業以外の特にIT関連企業を志向する学生の増加が目立っています。

進路指導の年間スケジュールで最も力を入れている行事が「夢実現プロジェクト」(夢プロ)です。夢プロは例年12月にCSTホールで本学科学生の採用を希望する企業40社以上に対し学生(学部3年生、大学院1年生が対象)100人以上が参加するマッチングイベントです。昨年度は、夢プロ参加企業に実際に就職した学生数が約20名ですので、全学生の1割程度が夢プロで就職の機会を得ているといえます。本年度は12月13日に開催され、参加企業42社、参加学生は154人でした。参加した学生が参加企業に対してどの程度就職活動を行っているかについては4月以降に整理できると思います。

例年、夢プロ以外に「業界セミナー」と「ミニ合同説明会」を実施していますが、本年は多くの学生が早めに希望する企業から内定をいただけたため、「ミニ合同説明会」は行わず、就職に関して疑問をもつ学生の個別相談を受け付ける体制を構築し、進路指導委員会として、企業と学生のミスマッチをできるだけ避ける手助けを心がけています。

一方、2月1日現在大学院に進学する学生は40人(昨年度66名)となっています。難関理系大学の大学院進学率は軒並み70~90%ですので、進路指導担当としては就職率を確保するとともに、大学院への進学率を高めたいと考えています。具体的には年度初めの履修ガイダンス等で大学院進学のリットを進路指導担当から説明しています。

昨年までは経団連が音頭をとり、就職希望学生の青田買いを避けるために、就職活動は3月解禁、内定は5月以降というルールとなっていました。本年度より就活スケジュールに対する経団連の関与がなくなり、企業サイドの対応に注目

が集まっていました。これまでの状況から、建設業界、化学中堅企業が昨年よりも早く内定を出しているという情報があり昨年以上に柔軟な対応が求められています。進路指導担当として、就活学生が他大学から遅れをとる等の不利益を被らないよう、最善を尽くす所存ですので、工化会の皆様におかれましても、ご所属の企業に1人でも多くの学生を受け入れていただける等のご協力をお願いできますと幸いです。



12月開催
夢実現プロ
ジェクト
風景
(CSTホール)

PVC・合成樹脂 コンパウンドメーカー



昭和化成工業株式会社

〒348-0038 埼玉県羽生市小松台 1-603-29

T E L 048-561-5221

高い技術力とノウハウが業界トップシェアを支えています。

昭和53年度卒 代表取締役社長 池本 俊一

多目的燃料添加剤の製造・販売

有限会社深澤化学研究所

〒194-0041 東京都町田市玉川学園8丁目 14-24

昭和52年卒 取締役副社長 深澤 豊史

令和元年度 日本大学理工学部学術賞 受賞



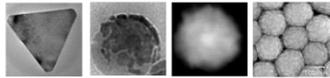
須川 晃資 准教授
超分子化学研究室所属

この度、「金属・半導体ナノフォトニック材料の化学構築、および学理と応用探索」という受賞題目で、令和元年度 日本大学理工学部学術賞を受賞致しました。このような栄えある賞を頂けたのは、研究室の主幸者である大月穰 教授をはじめ、学科、および大学内外の諸先生方のお力添えのお陰であり、ここに深く感謝の意を申し上げます。

「21 世紀は光の世紀」という概念の基、2010 年 4 月に日本大学に着任して以来、私は、一貫して光技術に基づく環境調和社会の構築、および先進医療技術の開発のための要素研究を行って参りました。その中で金属・半導体ナノ結晶が光と物質の相互作用を深化させるためのキーマテリアルであることに着目し、これらナノ材料の精密化学合成、および、種々の光機能材料・分子との複合材料開発を通じた新奇光電気化学反応を見出して参りました。最近では、光エネルギーの制御を可能にする「光閉じ込め材料」として知られる金・銀ナノ粒子の精密合成技術の開発、および安価な銅ナノ材料による光エネルギー制御技術を実現した他、近赤外応答半導体である二硫化鉄 (FeS₂) から成るナノ結晶を用いた、世界初の特異な光閉じ込め現象の発現を見出しました。また、これら材料による高効率光/電気エネルギー変換、光触媒反応の高活性化、アップコンバージョン発光の高強度化など、種々の光技術への応用を提案して参りました。世界における日本の存在感、科学技術力の低下が取り沙汰されている昨今、この日本大学理工学部物質応用化学科で何を成し遂げるべきか、化学の力で何にどう貢献できるのか、を常に考えながら教育・研究に邁進して

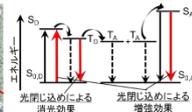
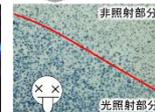
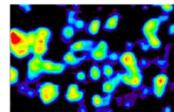
いきたいと改めて気を引き締めております。今後とも温かい目で見守って頂き、ご指導・ご鞭撻、ご支援を頂けますと幸いです。

種々の光機能
ナノ材料の
合成・開発



光機能・物理化学的性質の追求

医療・環境への貢献



がん細胞の選択的イメージング・選択的死滅 太陽光エネルギー活用技術

当研究グループの研究の流れ

令和元年度 学会賞・学生の活動

本年度の物質応用化学科の学生・OB の学会賞受賞などの活躍をご紹介します。(集計期間：平成 31 年 2 月～令和 2 年 1 月)

【教員の部】

- ・大月 稔 (超分子) Publons, Top Peer Reviews 2019 (Chemistry)
- ・大月 稔 (超分子) Publons, Top Peer Reviews 2019 (Cross-Field)
- ・小嶋芳行 (無材) 材料技術研究協会, 小石真純賞
- ・須川晃資 (超分子) 令和元年度日本大学理工学部学術賞
- ・小林良夫 (非常勤) 感謝状, 熊本県警
- ・小林良夫 (非常勤) 感謝状, 埼玉県警

【学生の部】

- ・金子竜二 (超分子) Elsevier, Solar Energy Journal Best Paper Award 2019
- ・今井隆太郎 (無分) 日本分析化学会有機微量分析研究懇談会, ベストポスタープレゼンテーション賞
- ・夏目莉紗子 (無材) 材料技術研究協会, 口頭講演奨励賞
- ・早川麻美子 (有合) 理工学部学術講演会, 優秀口頭発表賞
- ・平井あや (有材) 理工学部学術講演会, 優秀ポスター発表賞
- ・金子竜二 (超分子) Elsevier, Solar Energy Journal Best Paper Award 2019
- ・桐生莉沙 (生資) 第 27 回世界年齢別トランポリン競技大会, Women's Trampoline -GOLD
- ・桐生莉沙 (生資) 第 27 回世界年齢別トランポリン競技大会, Women's Synchronized Trampoline -SILVER
- ・桐生莉沙 (生資) 令和元年度日本大学学長賞
- ・安藤 晶 (3 年) 令和元年度理工学部分館長賞

深澤豊史氏 理工学部校友会正会員表彰受賞

令和元年 6 月 28 日(金)に行われた通常総会(於 東京ガーデンパレス)で、元理工学部校友会会長の深澤豊史氏が永年に亙る理工学部校友会の運営ならびに発展にご尽力をされたことが評価され、理工学部校友会正会員表彰を受賞されました。



工化会賞受賞者の声

平成 31 年 70 周年記念賞奨学生支援受賞者

有機材料化学研究室所属 椎野 智樹
(平成 31 年 物質応用化学科卒)

現在、私は温度応答性ナノファイバーゲルの調製というテーマで研究を行っています。大学院に進学し、このように研究に打ち込むことができるのも、工化会の皆様からの御支援、また様々な方のおかげであり、心から感謝申し上げます。今後も研究だけでなく勉学に取り組むことで社会に貢献できるように日々精進していきたいと思っております。

有機材料化学研究室所属 望月 健司
(平成 31 年 物質応用化学科卒)

現在、私はバクテリアセルロース/ポリカプロラクトン複合材料を用いた新規機能性材料の検討というテーマで研究を行っています。研究材料が環境負荷の少ない材料ということもあり、将来は人にも環境にも優しい素材や商品を通して社会に貢献していきたいと思っています。大学院に進学し、夢を持って研究に打ち込むことができるのも、工化会の皆様からのご支援のおかげであり、心より感謝申し上げます。今後も研究および勉学に励み、社会に貢献できる知識を得られるよう、日々精進していきます。

クラス会・同窓会の報告

昭和 35 年卒同期会の開催報告

昭和 35 年卒業のクラス会を隔年ごとに開催していましたが、歳をとると共に懐かしくなったか先がないのか毎年開けとの声があつて、毎年の開催となりました。令和元年 11 月 29 日に有楽町のイタリアンレストランで 14 名の元気な若者が集い、にぎやかに歓談、時間オーバーで店を追い出される程の盛り上がりでした。

仲間は八十路を越え日本の高齢化社会を支えてか、元気に昔を懐かしみ、社会の変遷に苦言を呈したり、最後は孫にべろべろになるような始末でした。歳とともにメンバーが減り、また参加したくとも出られない連中が増えてきました。皆さんの健勝を祈っています。

本年 3 月には卒後 60 年となります。工業化学科の活性化と工化会の発展を祈っています。
(幹事 安達)



昭和42年卒工業化学科同期会報告

漸く秋が深まり、冷たい雨が銀杏の葉をしきりに散らしていた11月22日(金)、42工化クラス会をスコラタワー一階学生カフェにて開催致しました。

御茶ノ水駅聖橋口からニコライ堂の坂を下って、旧5、6、9号館跡に聳え建つ18階建てタワー。免震構造むき出しのカフェを占拠して、そこそこ元気な15人が2年振りに、集まりました。

一番の年下も来年3月には75歳。卒業生全員が後期高齢者となります。話題は通院、介護、免許返納、終活、はたまた転倒、誤嚥、オレオレ詐欺のことなどが中心になると思っていたのですが、そんな話もチラホラあるものの、何のなんのまだまだ稼いでいます、とかダンスやっています、とか3000メートル登ってきました、孫の面倒楽しんでますなど元気な近況話しにあつという間に2時間が過ぎてしまいました。でも無茶な飲み方をする者は流石に居なくなり、約1名の先生を除いては足取りしっかりと2年後の再開を約して散会いたしました。

残念ながら参加できなかった方々にも、寄せられた便りを名簿の形にして送らせて頂きました。



令和元年12月 今田雅躬 記

本学元教授 植竹和也 先生におかれましては、平成 30 年 11 月 5 日にご逝去されました(享年 87 歳)。謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

第 3 回高分子合成研究室同窓会開催報告

2019 年 11 月 2 日(土)17 時よりパーティースペース Patia (パティア) 新御茶ノ水にて同窓会が開催されました。同窓会の前身である高分子合成研究室同友会の時から毎年大学会場で開催していましたが、今年例年と異なる会場でありましたが、会員 44 名が参加し盛況でした。高分子合成研究室同窓会は、毎年 11 月第 1 土曜日に開催を予定しています。第 4 回高分子合成研究室同窓会は、2020 年 11 月 7 日(土) 大学食堂等で開催を予定しています。卒業生皆様のご参加をお待ちしております。



(同窓会役員：片桐正志会長、太田裕久副会長、工藤慎平幹事長、大室泰典及び丸野晋平会計、川尻善之監査)

四駆プラス、新年会の報告

四駆プラスとは、工業化学科 S49 年卒、短期大学部 S47 年卒、大学院 S51 修了生の同期会です。昨年で 9 回目の開催となりました。7 回目までは 2 号館近くの居酒屋「プラザプラスワン」で開催していましたが、2017 年末の閉店に伴い、お茶の水駅近くに会場を変更しました。今回は H30 年 2 月 2 日にお茶の水サンクレール B1 の「笹陣：旧げんない」で開催しました。15 年間のマレーシア勤務を終え帰国した初参加者もいて 11 名が参加しました。大部分の参加者が退職し、新たな歩みを始めています。近況報告のあと、家庭内の自分の居場所、健康問題などの話題で盛り上がりました。

当初より四駆プラスの参加者が減少・固定化されているのが幹事として気がかりです。気楽な集まりです。次回は一人でも多くの方の参加をお願い致します。(幹事 元木)



後列：佐藤憲一、川口雅志、小林文雄
中列：山中光徳、元木英二、末木康行、武安栄樹、澤口孝志
前列：山崎純一、南茂樹、菅野昭

第30回無機会総会開催報告

無機会とは無機工業化学、無機材料化学、無機機能分析研究室の同窓会です。2019年9月21日(土)午後理工学部1号館 CST ホールにて第30回総会を開催しました。当日は総会前にタワースコラの見学ツアーも実施しました。総会開催に先立ち、無機工業化学研究室を創設され2018年7月12日にご逝去された荒井康夫先生に出席者一同で黙祷を捧げました。総会出席者は50名、幹事会からの報告、提案事項は原案どおり承認されました。今回、子育て中の会員が出席し易いように、子連れもOKにし、3家族が子連れで参加しました。総会時にはおとなしかった子供たちが、懇親会に入ると CST ホールを元気に走り回っていました。会員数は1322名(2019年3月末現在)になりました。次回2021年開催の総会は多くの会員の出席を期待しています。

なお、総会開催と同時に無機会誌10号(4年毎に発行)および2015年10月にご逝去された青木繁樹先生の追悼録を発行しました。



退職のごあいさつ

物質応用化学科 特任教授
櫻川 昭雄
(昭和51年博士前期課程修了)



本年度をもちまして、専任ならびに特任教授として44年間にわたりお世話になった本学を退職することになりました。1976年に助手に採用されて以来、分析化学研究室で微量陰イオンの高感度定量法の開発をテーマに研究を行ってまいりましたが、色ガラスを用いたフィルター式の吸光光度計を使用して実験を行っていた時代を省みますと、分析機器の進歩には目を見張るものがあります。研究室に一台しかなかった分光光度計もその後は、年毎に購入・設置されて行き、私もその恩恵を授かるに際して便利な時代になったことをつくづくと感じさせられました。それから数十年経った今では、微量陰イオンの定量にはイオンクロマトグラフィーが採用されるようになり、研究室の後輩スタッフがその研究に没頭しているのを見ますと、時の流れを今さらながら強く感じます。また、私の所属した研究室はスタッフが多くいたこともあり、その分だけ多くの学生諸君と卒業研究の指導の名目で触れ合ってきたと思います。多くの方々と交流できたことは、私にとって何にも替えがたい宝物になっています。

退職を前にして感じることは、専門の研究分野や大学の勤務でも解らないことが増えてきたことです。ある研究会で、分析装置のメーカーの方から、装置を敢えてブラックボックス化しているという話がありました。装置の中が見えて機械の動作が分かるようになっていたら、私の機器分析の講義も少しは気の利いたものになると思っていたので衝撃的な発表でした。また、大学での職務についても、理解できないことが年毎に増えてきた印象があります。

外に目を転じますとスキーやテニス用品の店が目立った駿河台界限も今では、楽器やカレーの街としての知名度の方が高くなり、大学周辺の景色も変わってきています。今さらながら、半世紀の時間の流れを感じている昨今です。

末筆になりますが、工化会員諸兄のご健勝ならびに物質応用化学教室の一層のご発展を祈りまして、退職の挨拶とさせていただきます。

定年退職のごあいさつ

短期大学部 生命・物質化学科 教授
深津 誠
(昭和59年博士後期課程修了)



令和2年3月末をもって定年退職致します。大学入学より長年にわたり物質応用化学科（旧工業化学科）と短大の生命・物質化学科（旧応用化学科）にお世話になり、心よりお礼申し上げます。この長い間に印象に残っていることをならべて、退職のご挨拶とさせていただきたいと存じます。なお、冒頭「令和」と書きましたが、元号だと3つが混在するので、以後は西暦で書かせていただきます。

入学は1974年で、1年次の教室は習志野校舎（今の船橋校舎）の8号館4階にあり、なんと船橋校舎での現在の居室の真上だと思われまふ。印象に残っている講義は松本太郎先生の工業化学総論で、今でいうインセンティブでしょうか。あとは田村利武先生の有機化学で、4年後にこのお二人の研究室で卒業研究をさせていただきました。当時の研究室名は油化学で、そのあと有機工業化学をへて、現在の生物資源化学へつながっています。

教員として採用されたのは博士後期課程で学位をいただいた1984年のことで、数年後に学科創設50周年の記念行事があり、新米助手としてお手伝いし、伝統ある学科に所属していることを実感したものです。1993年から1年間は海外派遣研究員としてカナダの穀物研究所に行かせていただき、貴重な経験となりました。1999年には学科名が工業化学科から物質応用化学科となりましたが、妹尾学先生を中心とした新学科名を考える数名のグループに参加させていただきました。短大の応用化学科を生命・物質化学科に変更した2012年は学科長を拝命した翌年のことで、この時は専任教員全員で考えたので、新学科名が生まれた場に2度もいたこととなります。

2019年4月に短大の生命・物質化学科は募集停止しましたが、今後はものづくり・サイエンス総合学科内の応用化学専攻が存在感を増していくと思っています。そして創設80年を越えた物質応用化学科も理工学部を中心としてますます発展していくことを願っています。

退職のごあいさつ

物質応用化学科 特任教授 榎 泰典

日大に着任し、定年退職までの8年、そして特任の2年間で併せますと今年度末で丁度10年を迎えます。学科の更なる発展の為にはこのあたりで私はその区切りを付けるべきと考え、3月末で退任することと致しました。この間物質応用化学科の教職員の皆様、工化会の皆様には大変お世話になりました。この場をお借りして厚く御礼も申し上げます。

前任地であります帯広畜産大学より本学科に採用され2010年4月に本学科に着任し、まずは研究室(物質生命化学研究室)の立ち上げでした。配属されていた4年生と共にひとつひとつ荷物を解きながら実験器具の説明とその目的の説明をしながらのセットアップでした。今もその光景が思い出されます。翌年から新しく採用して頂いた鈴木佑典助教(現准教授)と共により一層、学生の教育・研究に携ることができたことは何よりもまして力強く、そして充実した時間であったと感じています。8年間の短い現役生活の中でその途中の2年間は図らずも教室主任としての学科を束ねる任を委される日々もありました。学科の先生方の力や協力を得ながら私なりに精一杯努力したつもりですが、至らない部分もあり皆さまにご迷惑をかけましたこと、ここにお詫びいたします。

この学科に採用された私のミッションは生命系の教育(実験実習も含めて)、及び研究の更なる充実でした。当時生命系の研究室は環境微生物学研究室と生物資源研究室で、さらに私どもの物質生命化学研究室が加わることでより充実を図ろうとしたものです。まず最初に着手したのが、要望がありながら設置出来ずにいた遺伝子組み換え実験施設を設置することでした。立ち上げには西村克史先生と共に学部及び学科内の先生方の協力を仰ぎ、ようやく2号館の224A室にバイオ研究の必須のツールであるP2レベルの組み換え施設を設置できました。現在本学科の主に2つの研究室が利用し、更には学部3年生の学生実験にも活用され、前後して学生実験用の教科書に遺伝子組み換え実験を掲載できたことはミッションの実質的具現化に貢献でき感無量の思いです。また、大学院カリキュラムの改訂については当学科の『80周年の歩み』に既に書いていますので詳細は省きますが、それまでややもすると大学院生の研究は教員のお手伝い的な意味合いがありましたが、初期段階で学生と指導教員と一緒に計画の作成を行うことにより、きめ細かい指導の実施体制と学生への自覚を促すことを目指し、計画に基づいた発表会や進捗会が定期的に行われ、ここ2~3年の間にその指導効果が着実に上がって来ているのを感じます。また、本年度より新たに理学修士、理学博士を取得できる大学院の専攻が開設され

ました。理工学部の中で物理学科、数学科と共に理学、即ち物事の真理を追求することも化学の中で大きな分野であり、応用学の工学と理学が共存する化学は今後益々科学の中心になりうる学問となり、幅広い意味での本専攻の力量が試されます。立案に関わった一人として学生実験の充実化も含めてこの学科の生命系の教育・研究内容の充実にはお役に立てたのかなと安心しています。

偶然かも知れませんが私は前の大学も丁度10年間で区切りをつけましたことを考えますと物質応用化学科での10年もひと区切りであり、私の中でやりきった感があります。今後しばらくは次のステップへ進むリセットとその充電に充てたいと考えています。

『我々教員はあたかも学生に教育・研究、学問を教えているように見え、学生に人生を教えているように感じるかも知れないが、実は我々教員は学生から教育・研究、学問を学び、学生から人生を学んでいる』と昔大変お世話になった先生からこの言葉を教えて頂きました。

最後に理工学部物質応用化学科を選択してくれた学生の皆さんやご家族、そして社会からより評価される学科を目指して、更なる教育・研究のシステムの整備を祈念致しております。また、引き続き工化会の皆さまには物質応用化学科に更なるご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

新 任 紹 介

物質生命化学研究室
助教 松下 祥子



平成31年4月より物質応用化学科の助教に着任致しました松下祥子と申します。私は金城学院大学薬学部を卒業後、浜松医科大学大学院医学系研究科に進学し、質量分析を用いた生体試料解析を行ってまいりました。学位取得後は藤田医科大学医学部腎臓内科にポスドクとして着任し、腎疾患のメカニズム解明を中心とした研究に取り組んでまいりました。これまで教育に関わる機会は限られていましたが、物質応用化学科での卒業研究や講義、専門化学実験での教育活動を通して、学生から日々刺激を受け、教育のやりがいを感じると同時に、80年を超える伝統ある本学科の一員として研究・教育に関われますことに心から感謝しております。物質応用化学科の名に恥じぬよう、日々努めてまいりますので、工化会会員の皆様にはご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

令和元年度工化会事業報告

令和元年度工化会通常総会は、駿河台校舎 1 号館 5 階 151 教室にて令和元年 5 月 25 日(土)15 時より、役員・会員 544 名(内委任状 477 名)の出席を得て開催されました。総会では、庶務・会員・会報各委員会の平成 30 年度事業報告案、会計決算報告案および監査報告ならびに令和元年度事業計画案および会計予算案、役員改選案、深澤豊史工化会相談役の理工学部校友会個人表彰への推薦案、物質応用化学科創設 80 周年記念会収支決算報告および工化記念基金委員会要項・表彰基準の改訂についての審議を行い、これらを承認しました。また、学科創設 70 周年記念基金学生支援事業の奨学金が 2 名に授与されました。工化記念基金委員会の事業報告・事業計画、70 周年記念基金の決算報告および 80 周年記念基金の予算報告を行いました。総会後は駿河台 1 号館で懇親会が開催され、太田延幸会長の挨拶、物質応用化学科教室主任の小嶋芳行先生より現況報告があり、ホームカミングデーとして招待された還暦を迎える卒業生に記念品を贈呈致しました。

本年度の事業計画としては、役員会・通常総会の開催、付属高校生のための CST オープンカレッジ 2019、駿河台入試フォーラム 2019、令和元年度日本大学理工学部一日体験化学教室、CST オープンキャンパス 2019、短大ものづくり&サイエンススクール 2019、第 6 回物質応用化学科夢実現プロジェクト、第 13 回合格者相談会、令和元年度物質応用化学専攻・同学科ならびに短大生命・物質化学科合同の学位記伝達式、物質応用化学科・工化会共催「ミャンマー国際交流」の 9 つの事業に対する後援、工化会賞の授与、工化会主催の講演会の開催、工化時報の発行・発送が承認されました。

さて工化会賞は卒業時に、在学時の学術・文化等において顕著な結果を残し、工化会の名誉を高めるに貢献した学生を工化会として表彰するものですが、本年度も厳正な選考を行い、受賞者合計 42 名には、3 月 25 日(土)に開催した大学院・学部・短大合同の学位記伝達式の際に賞状と記念品を贈り、その栄誉を讃えました。なお本学科の創設 80 周年記念事業として制定された若手研究者支援(大学院博士後期課程在学者が対象で当該年度の学位修得者)、奨学生支援(大学院博士前期課程進学予定の成績優秀者で特待生を除く)、奨励賞(大学院・学部・短大の修了・卒業生の中で高難易度の資格免状等を取得、または好成績を収めた学生が対象)については、若手研究者支援は 3 名、奨学生支援は 1 名、奨励賞については大学院 3 名、学部 27 名、短大該当者なし、合計 30 名に対して支援・授与が行われました。

最後に令和元年度の工化会予算についてですが、本会では予算を経常会計予算と特別会計予算の 2 種類を編成しており、

令和元年度経常会計予算は総額 701.1 万円で、その内訳は学生支援事業費が 16.0 万円、各種講演会・行事支援事業費として 175.8 万円、卒業生支援事業費は 110.1 万円、その他 136.0 万円、次年度繰越金が 263.2 万円であり、特別会計予算は総額 1056.2 万円で、内訳は卒業生支援事業費に 210.1 万円、会費・寄付金郵便振替対応業務として 4.0 万円、国際交流支援に 50.0 万円、次年度繰越金として 792.1 万円計上しています。なお令和元年度の会員諸氏による会費の納入状況は、本号の会費納入者氏名一覧をご覧ください。

最後に、令和元年度の工化会主催行事ならびに後援事業の概要を以下に報告します。

① 4月20日(土) 15:00~16:50

第1回役員会：役員 58 名出席（内委任状 27 名）。

② 5月25日(土) 15:00~

通常総会：544 名出席（内委任状 477 名）。

懇親会・ホームカミングデー

③ 6月9日(日)

CST オープンカレッジ 2019：付属高校生 142 名が来場。

④ 7月14日(日)

駿河台入試フォーラム 2019：高校生 257 名が来場。

⑤ 7月27日(土)

令和元年度日本大学理工学部一日体験化学教室：高校生 73 名が参加。

⑥ 8月3日(土)、4日(日)

CST オープンキャンパス 2019：高校生 579 名が来場。

⑦ 9月26日(木) 16:30~

物質応用化学科・工化会共催「ミャンマー国際交流」講演会
講師：Dr. Yadanar Win Myint (Department of Research and Innovation)

演題：The role of DRI in research and development of Myanmar and potential research trends to be collaborate with Nihon University
教職員・学生対象に開催。

⑧ 11月3日(日)

短大ものづくり&サイエンススクール 2019：地域の方、のべ 67 名が参加。

⑨ 12月7日(土)、8日(日)

ICSE2019 (会場：ヤンゴン工科大学) に大学院生 1 名を派遣。

⑩ 12月13日(金)

第6回夢実現プロジェクト：企業 42 社、学生 154 名が参加。
詳細は進路指導委員会からの就職状況報告を御覧ください。

⑪ 12月21日(土) 16:00~17:10

第2回役員会：役員 64 名出席（内委任状 37 名）。

⑫ 2月23日(日)、27日(木)

第13回合格者相談会：23日(日)：15組 29名、27日(木)：12組 21名、両日で 27組 50名が参加。

⑬ 3月25日(水)

令和元年度物質応用化学専攻・同学科ならびに生命・物質化学科学学位記伝達式。

以上 庶務委員会

会費,寄付金納入者名簿 (令和2年2月13日現在)

昭和16年卒	植竹 和也	塩澤 進	大橋 隆	高間 伸一
櫻村 正久	近藤 練太郎	篠 大太郎	大村 俊晴	丹野 隆善
昭和19年卒	昭和31年卒	鈴木 修	木村 次雄	西脇 鉄雄
脇 幹夫	伊藤 博国	高尾 俊行	久喜 徹	幡野 匡彦
日暮 忠弘	川口 國雄	瀧澤 文男	栗田 公夫	三谷 治郎
昭和20年卒	小松原 彬	難波 純一	竹内 栄多	清水 博太郎
濑谷 洋平	高橋 一正	野島 秀次郎	永田 正巳	飯原 打越
杉浦 銀蔵	柿澤 正彦	原 幹夫	西山 孝彦	山岡 景仁
昭和21年卒	雁部 敬夫	町田 収	原田 文雄	有田 喜一
石川 幸一	田畑 調友	吉井 洌	渡部 長幸	昭和41年卒
齊藤 光平	矢野 弘子	渡邊 高章	原 章	石毛 哲男
昭和22年卒	吉田 幸三	渡辺 哲治	荒谷 作松	塚田 悦造
大川 襄治	昭和32年卒	倉形 邦英	白石 益郎	中澤 豊
昭和23年卒	阿久津 芳彦	須藤 隆司	杉田 松生	藤池 誠治
伊藤 謙	網代 良太郎	丸山 長資	藤野 裕	宮城 晃
昭和25年卒	工藤 富司	宮本 實	南山 茂男	小倉 繁三
池田 富三	篠崎 清	島田 洋子	山田 秀夫	木村 勲
榊田 雄三	田中 昭男	大石 昌弘	昭和39年卒	佐藤 栄祐
西田 正雄	竹内 孟	村川 信子	赤池 昭彦	嶋田 晋廣
吉岡 典照	東海林 正	山本 成也	秋本 幹夫	館 敏夫
吉田 耕一	樺本 弘昭	昭和36年卒	石井 国昭	彦田 一夫
昭和26年卒	永田 治義	石井 照明	石川 和正	高桑 豊
稲垣 正	西田 金誉	宇賀治 正名	金田 紘一	玉應 亨三
太田 精一	藤岡 幸彦	小川 昌太郎	神谷 中	昭和42年卒
垣内 宏	宮川 了一	越智 健二	亀村 轟	赤坂 洋輔
中野 博司	依田 恵市	飯戸 斌	渡辺 久和	今田 雅躬
鈴木 信夫	齋木 稔	木村 繁夫	児玉 義宏	岡見 宏道
昭和27年卒	笹原 孝	黒尾 良康	斎藤 伸之	鈴木 健之
植松 貢	清治 英子	佐藤 進	斎藤 博之	栃木 勝己
柏木 治彦	昭和33年卒	齋藤 博	斎藤 守園	中井 忠男
外山 研次	阿部 正明	坂本 昌伍	相楽 哲夫	永井 紘志
国分 兼一	青山 達也	鈴木 善治郎	鈴木 庸一	永田 一雄
近藤 住吉	伊藤 明	炭田 幸宏	瀬尾 宏	豊田 文江
橋 敬治	奥野 士郎	高柳 裕臣	竹石 肇	長谷川 元保
石田 宏	加賀 勤之助	宮道 雅行	武田 幸久	古阪 一昭
高田 芳行	柏崎 敏郎	村田 敏弘	奈良木 亨丞	溝口 隆一
和井内 徹	熊谷 祐一	吉田 昌弘	中澤 甫	山下 睦之
昭和28年卒	小林 脩一	渡辺 寿義	中田 博	内田 勝久
鈴木 一成	才木 義夫	佐藤 貞男	中林 実	長田 義男
田村 佐重	齋藤 二郎	砂川 憲二	仲野 一次郎	佐藤 馨
仁禮 誠二	永井 滋	野村 友次	野口 文雄	田中 秀也
福島 敏郎	箕浦 滋	中村 紀史	原 襄輔	山崎 博
堀 武	小澤 信也	桔梗 隆	堀 是治	昭和43年卒
松岡 高	広瀬 俊雄	小串 照宗	田幡 安郎	浅井 保雄
吉川 和夫	昭和34年卒	伊藤 成利	山崎 恭弘	安藤 公一
佐藤 正巳	大久保 勝弘	伊藤 成利	横田 力男	宇智田 俊一郎
村上 全司	小林 照弘	奥山 正之	和田 高伸	海上 幸三
山口 猛	齊藤 隆	駒井 俊雄	青木 匡	北村 正孝
昭和29年卒	桜井 鉦二	清水 大三	北村 隆	梅北 司
石井 喜悦	玉置 憲三	芝田 研爾	小屋原 英雄	佐藤 精二
井上 秀雄	藤森 信正	庄司 翠	鈴木 良治	進藤 宣昭
井上 頼淑	松浦 豊紀	杉崎 秀夫	田中 誠悦	昭和44年卒
小林 清人	山谷 保二	津崎 信隆	高松 武生	安藤 純一
周 永貴	横川 徹也	富田 允雄	富士 光男	石井 和夫
谷川 清	菊田 庄一	長谷川 修一	寺山 洋子	石山 利男
寺島 昌訓	栗原 孝夫	宮沢 武次	近藤 慶之	井上 隆
長山 勝政	昆野 澄夫	石岡 龍石	昭和40年卒	今脇 秀雄
八田 肇	昭和35年卒	磯崎 昭徳	稲葉 清彦	大橋 正宣
横田 一郎	安達 昭郎	神保 進	上田 輝世	桜井 浩平
米山 廣保	青木 弘	長友 良久	上野 公雄	信濃 孝之
渡辺 文夫	安藤 成昭	原 周二	牛山 恵次	新藤 豊彦
荻野 堯	石川 好隆	植木 庄左衛門	沖本 武且	田中 敦
高橋 久雄	内田 穆堂	昭和38年卒	上條 陽一郎	花井 秀之
浅川 和昭	笠井 啓也	井野 二陸	佐藤 瑞雄	横山 二郎
昭和30年卒	黒木 妙子	深井 英世	土田 紘一	小栗 勝治
綾野 伶	河合 哲次	稲垣 甫	飯野 宏治	濱田 文雄
金井 孝道	小林 隆夫	梅田 高生	高橋 志郎	原 幸夫
古川 新	定方 聡博	大野 維夫	武井 秀彦	

小林 満	松葉 幸雄	坂本 恵一	昭和62年卒	平成13年卒
篠崎 勝彦	元木 英二	鈴木 昌三	加藤 慎次郎	藤田 尚之
田中 碩	山崎 純一	坂本 信子	幾留 孝司	平成14年卒
滝戸 俊夫	山中 光徳	昭和55年卒	清水 恵樹	小曾根 美美
土田 久	坂入 邦晴	金子 堅司	昭和63年卒	角田 雄亮
中澤 之博	田島 平良	黒瀬 健介	石井 睦子	安達 景子
永島 一男	昭和50年卒	小出 真	乙川 千博	吉川 賢治
永田 勝彦	上田 賢二	多田 康男	歳森 幹生	平成15年卒
服部 正隆	大高 清	戸塚 宏	三井 宏	佐々木 大輔
平塚 良一	汐澤 日出夫	丸山 博秀	村山 竜一	堀川 達哉
宮川 晃一	関 孝光	森 弘通	中西 剛	平成16年卒
望月 昭宏	中島 邦夫	木村 昌広	中道 幹芳	石川 英章
森川 美次	野原 正男	田仲 成男	敷野 修	平成17年卒
森崎 正美	服部 信和	波岡 宣彦	平成元年卒	赤澤 寛行
加村 尚喜	中野 功	昭和56年卒	磯崎 誠也	平成18年卒
佐藤 宗衛	関口 真理	池田 実	木方 真理子	稲見 明香
瀬戸 博	牛込 淳彦	奥田 直史	黒田 美和子	平成19年卒
寺田 高德	長井 一良	今野 直哉	小池 英雄	伊藤 拓哉
昭和46年卒	大川 由明	後藤 真一	佐野 伸一	稲見 宏之
岩間 幸雄	昭和51年卒	熊谷 一弘	栗田 雅子	平成20年卒
大木 雅夫	井之上 佳三	植松 烈平	和田 香織	松岡 祥江
木村 二郎	内野 好夫	大沼 明	平成2年卒	小出 優一郎
小谷 将彦	重盛 正男	三橋 昭男	石川 恵子	平成21年卒
齋藤 政久	鈴木 博	有川 俊一	城内 秀彦	吉田 隼人
鈴木 重衛	馬場 務	木屋 幸蔵	荒川 一郎	平成23年卒
吉広 邦夫	須貝 健一	昭和57年卒	平成3年卒	太田 直裕
高橋 秀樹	前田 勉	江田 久雄	川野辺 晃生	春日 龍史
丹野 幸久	昭和52年卒	大内 高弥	鈴木 光一	渡邊 優児
八木 信雄	大窪 峰裕	井上 みどり	永田 晶義	平成24年卒
飯田 隆	栗村 嘉明	小暮 勝彦	村原 伸	工藤 慎平
冬室 誠	佐藤 祐二	小捩 幸夫	高田 昌子	平成25年卒
昭和47年卒	荻原 謙二	中村 宏昭	坂田 純	伊東 哲博
駒屋 伸雄	齊藤 孝	中村 明裕	平成4年卒	金子 剛大
齊藤 菊夫	酒井 久男	久松 美樹	桐山 崇一	近藤 駿平
丹呉 秀博	志田 邦昭	三根 郁夫	齋藤 利文	関口 結樹
何木 正芳	瀬戸 秀明	伊藤 和宏	佐藤 裕司	田村 高大
藤本 孝人	深澤 豊史	梅田 栄一	橋本 智	松山 史典
森 伸一	古橋 雄二	内田 陽子	林 由浩	曾村 岳郁
飯倉 登美雄	前川 幸生	桑折 敬子	松田 和夫	平成26年卒
昭和48年卒	山田 忠雄	山浦 信介	萩原 洋子	野中 裕名
加来 文隆	関口 晴久	佐藤 慎一	平成5年卒	長谷川 翔大
重藤 峻一	堀内 晴夫	昭和58年卒	岩淵 弘晃	本城谷 拓
渋谷 修	太田 政子	岩崎 好高	米田 哲也	平成27年卒
戸早 哲太郎	新国 貞幸	飯田 隆久	平成6年卒	田中 里奈
中島 慎司	昭和53年卒	栗原 清文	遠山 岳史	藤谷 昌弘
長谷川 一夫	伊藤 俊広	田村 精一	平成7年卒	井上 悦宏
平林 明夫	植松 一郎	高山 利治	岡田 賢識	平成28年卒
安岡 徹	勝亦 章行	長 茂輝	奥村 佳代子	福田 寛之
山中 操	小林 康秀	谷田貝 仁恵	谷合 哲行	増山 裕之
渡辺 明典	高木 英行	中山 佳則	平成8年卒	山口 健吾
川津 義人	原田 茂	矢島 浩之	湯浅 貴之	平成30年卒
小宮 清子	原田 哲也	山田 美穂子	仁平 勉	岡野 貴洋
坂口 信昭	深津 誠	谷田貝 隆	原野 満実子	谷口 怜太
藤井 克彦	阿部 哲夫	久保田 博明	加藤 太志	平成31年卒
矢田 智	市之宮 重雄	立岩 洋	平成9年卒	向坂 珠実
増村 正志	黒澤 錬二	昭和59年卒	浮谷 基彦	教員
関口 優紀	昭和54年卒	小峰 昌弘	林 秀憲	青山 忠
昭和49年卒	浅野 祥司	清水 繁	平成10年卒	西村 克史
青木 杜慈朗	榎本 充男	中井 佳子	島村 寛人	櫛 泰典
牛山 仁司	小笠原 幸道	昭和60年卒	荒井 滋人	須川 晃賢
久保 隆	太田 延幸	石見 勝洋	伊掛 浩輝	鈴木 佑典
小島 元昭	大野 正博	鈴木 義弘	横田 昇平	仁科 淳良
小林 正男	久保 俊一	村松 岳彦	眞智 絹代	大内 秋比古
小茂田 英男	杉山 文敏	矢澤 聡隆	平成11年卒	工藤 雅孝
佐藤 憲一	中村 真理子	小淵 洋子	浅野 賢一	松下 祥子
佐藤 哲	服部 洋一	高橋 宏和	樋口 孝夫	
澤口 孝志	藤生 康彦	古田 光紀	平成12年卒	計615件
末木 康行	目良 昌三	昭和61年卒	伊掛 美里	
湯川 吉美	谷藤 善美	片桐 正志	創設80周年記念誌64ページにおいて、ご寄付いただいた昭和47年卒 森 伸一 様のお名前が欠落しておりました。深くお詫び申し上げます。	
武安 栄樹	山中 一典	小嶋 芳行		
館 徹	横森 英俊	那賀 恵美子		

編集後記

平成から令和へと天皇の譲位に伴う改元が行われた昨年、短期大学部生命・物質化学科も学生募集を停止し、ものづくり・サイエンス総合学科の新たな「応用化学」分野として出発しました。令和元年度からの新分野ということに時代の変遷を感じています。学生数減少の時代で短大としても定員管理の難しさはありますが、学生へのきめ細やかな教育を続けながら、“応用化学分野ここにあり”と日々精進していきたいです。本記事作成時に、新型コロナウイルス COVID-19 が世界で猛威をふるっています。これらの様々な情報には化学的に疑問を感じる内容もあり、化学的な知識の必要性を強く感じています。化学にかかわる私たちとしてできることは、“化学は想像以上に生活を取り巻いていること”を啓発し、またその魅力も正しく楽しく伝えることではないでしょうか。一日も早くこの猛威が治まることを望みます。

(工化時報編集委員 平成17年卒 赤澤 寛行)

お知らせ

令和2年度の行事予定

6/6(土) 工化会総会 午後(1号館を予定)

8/10(月) 一日体験化学教室(予定)

8/22(土)、8/23(日) CST オープンキャンパス2020

10/11(日) 理工学部ホームカミングデー(駿河台校舎)

11/1(日) 短大ものづくり&サイエンス・スクール2020

連絡先

- ・住所変更に関する問合せ→会員(伊掛 TEL:03-3259-0823)
- ・会費に関する問合せ→会計(清水 TEL:03-3259-0803)
- ・工化時報に関する問合せ→会報(西村 TEL:03-3259-0824, FAX:03-3293-7572, E-mail: jihou-mac-cst@nihon-u.ac.jp)
- ・上記以外の関する問合せ→庶務(栗原 TEL:03-3259-0822)

広告募集

工化時報では会社広告を募集しています。掲載の詳細につきましては会報委員会までお問い合わせください。

掲載料 1件 : 10,000円

発行所

東京都千代田区神田駿河台1-8
日本大学理工学部工化会会報委員会

西村克史, 赤澤寛行, 谷川 実, 遠山岳史, 永島一男, 萩原俊紀,
米田哲也

学生編集委員, 3年: 糟谷紗希, 菊地 晶

ホームページ, <http://www.chem.cst.nihon-u.ac.jp/index.html>